

# 病 態 研 報 告

岡山大学 医学部長 小 田 琢 三

本報告の前身「岡山大学温泉研究所報告」は昭和23年に「岡山医科大学放射能泉研究所報告」として創刊され、古い伝統と輝かしい研究歴史を残してきましたが、昭和60年3月、温泉研究所の改組により、第56号をもって終刊を迎えました。しかし同研究所の医学系部門は同年4月より岡山大学医学部附属環境病態研究施設に、また地球科学部門は全国共同利用の岡山大学地球内部研究センターに転換改組され、医学系の研究業績はここに「環境病態研報告」第57号として、発展的に継承刊行されることとなりました。誠に喜ばしいことであります。

環境病態研究施設は環境病態研究部門の大部門の中に基礎環境病態学分野、成人病学分野、およびリハビリテーション外科学分野の3分野があります。これは近年の学術研究の進展に適切に対応し、基礎医学と臨床医学の緊密な連携のもとに総合的な研究体制を整え、これまでの温泉研究所としての実績を活かしながら、環境要因と遺伝的素因に基づいた疾患の発生関係を環境病態として包括的に追求研究するものであります。なお同地には内科、外科、産科婦人科の3診療科とリハビリテーション部、検査部の2中央診療施設をもつ岡山大学医学部附属病院三朝分院があり、研究施設と分院とは緊密な連携のもとに運営され、本報告の発行も従来通り、両者の共同で行われることとなりました。

顧りみれば、昭和14年に岡山医科大学三朝温泉療養所が開設されて以来、昭和18年に岡山医科大学放射能泉研究所に改組され、さらに昭和24年に岡山大学温泉研究所と岡山大学医学部附属病院三朝分院に、さらに昭和60年に同研究所の医学系部門は環境病態研究施設に引き継がれて、今日まで半世紀にわたって、温泉の医学的研究と診療活動が続けられてきました。それは前分院長大島良雄教授（東京大学名誉教授）、現分院長森永寛教授、前温泉研究所長故仲原泰博教授、現研究施設長原田英雄教授をはじめ、多くの教職員および関係各位の多年にわたる御尽力の賜物であります。仲原教授は昨年6月に御逝去なされ、森永教授は今年3月に定年御退官を迎えられます。誠に惜別の念に堪えません。環境病態研報告の創刊号ともいべき本報告が、森永教授御退官の特集をもって飾られますことは誠に意義深いことでありまして、森永教授の偉大な貢献に報い、研究施設の将来の発展を期するうえに役立つことを念願してやみません。そして年々、益々立派な研究成果が報告されて行くことを期待し、本環境病態研報告の創刊を心からお祝い致します。